

NO.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	男 20代	HIV感染症 (血友病 A,B型肝炎, C型肝炎)	6カプセル 2日間  (50日間投与なし)  6カプセル 4日間	<b>完全房室ブロック, 第2度房室ブロック (Wenckebach型)</b> 投与28日前 : 7年前より抗HIV療法を開始している。末期AIDSに対するサルベージ治療目的で入院。 投与開始日 : 本剤, ジダノシン投与開始。 投与2日目 (投与中止日) : 嘔気, 動悸が発現。本剤, ジダノシン投与中止。心電図検査で完全房室ブロックが発現。硫酸アトロピン静注で改善。硫酸オルシプレナリン内服で心拍数をコントロールした。以後, 中止1日後, 14日後にも完全房室ブロックを認めた。 中止2日後 : 夜間に第2度房室ブロック (Wenckebach型) を認めた。以後, 中止3日後, 19日後, 21日後, 31日後, 35日後にもホルター心電図上に第2度房室ブロックを認めた。 中止15日後 : 完全房室ブロックは回復。 中止46日後 : 中止14日後を最後に完全房室ブロックの再燃なく, 退院。 中止51日後 (再投与開始日) : 本剤, ジダノシン再投与目的で再度入院。同日本剤, ジダノシン投与開始。 再投与2日目 : 早朝, 胸部不快感訴求あり。心電図上第2度房室ブロック (Wenckebach型) を認めた。以後, 再投与3日目, 4日目にも第2度房室ブロック (Wenckebach型) が散発した。5%ブドウ糖加乳酸リンゲル液による負荷と硫酸アトロピン0.5mgで胸部不快感が改善。 再投与4日目 (投与中止日) : 本人の希望で本剤, ジダノシンを中止。薬剤中止後も胸部不快感を自覚していた。 中止1日後 : 以後, 第2度房室ブロック (Wenckebach型) を認めず。第2度房室ブロック (Wenckebach型) は軽快。 中止3日後 : 胸部不快感消失。硫酸オルシプレナリン内服継続で退院。 中止4日後 : サニルブジン, ラミブジン, ネルフィナビルの投与開始。中止17日後, これらの薬剤を中止。以後, 中止27日後に第2度房室ブロック (Wenckebach型) を認め, 中止31日後に房室ブロックを認めた。以降, 第2度房室ブロック (MobitzII型) を含む不整脈事象が中止35日後まで見られた。 中止35日後 : 房室ブロックは回復。	企業報告
併用薬: ジダノシン (被疑薬), インターフェロンアルファ-2b (遺伝子組換え), 乾燥濃縮人血液凝固第VIII因子, スルファメトキサゾール・トリメトプリム配合剤, リバビリン					